

**ヤマトクロスジ
ヘビトンボ号**

ふるさと侍従川に親しむ会会員・関係者の皆さま

ふるさと侍従川に親しむ会の活動への日頃のご理解ご協力誠にありがとうございます。
新型コロナウイルス禍により、ご不便、ご不安な日々を過ごされ、大変な状況でいると思います。

ふるさと侍従川に親しむ会も、緊急事態宣言発出以降は活動を停止し、皆さまとお会いできず、寂しく思っています。

先月末に緊急事態宣言は解除されましたが、いつ第2波が来るか分かりません。外出を控えて家にいる際には、このふるさと侍従川に親しむ会 会報「だぼはぜ通信」のバックナンバー1~49号をお読みいただくことをお勧めします（バックナンバーは、「侍従会ホームページ」<http://jijyukai.sakura.ne.jp/wp/> でご覧になれます）。

そして、「侍従川が、こうなったらいいな」といった夢を語り合いたいですね…その夢を、活動指針となるマスタープランとしていきたいとも思っています。

活動再開しましたら、侍従川がより一層、人も生きものもにぎやかな川に、主役である子どもたちや若者たち（ジュニア探検クラブ&学生部メンバー）の元気いっぱいの姿が、10年後50年後も見られる夢ある侍従川となるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思えます。

皆さまのより一層のご理解ご協力を何卒よろしくお願ひします。

ふるさと侍従川に親しむ会 代表 山田陽治



イラスト：貞廣宇保

編集部注：解説は次のページです。

ヤマトクロスジヘビトンボ (大和黒条蛇蝿蜻蛉)

学名 : *Parachauliodes japonicus*

幼虫は主に河川上流域の穏やかな流れに住み、大きなアゴでミズムシやカゲロウ類の幼虫を捕食する。

幼虫のお腹には節毎に糸状付属器があり、この突起が足のように見える事からカワムカデとも呼ばれる。この仲間の幼虫は釣り餌としても利用され、孫太郎虫という別名もある。成虫になると河川に近い雑木林に住み、樹液や果実の汁を主食とする。5月～7月頃に出現し、街灯や自販機等の灯火にも飛来する。

幼虫、成虫共に夜行性で、漫画「風の谷のナウシカ」に出てくるヘビケラは、この仲間をモデルに描かれたとも言われる。和名にトンボと付くが、いわゆるトンボの仲間「トンボ目」とは全く別のグループで、ラクダムシやカマキリモドキ等、マイナーな昆虫揃いの「アミメカゲロウ目」に分類される。侍従川の定例調査でも幼虫がたびたび確認され、上流域の調査では成虫も確認されている。

深沢大地

3月定例クリーンアップ

【活動報告1】

3月22日(日) 9:00～11:00 曇り

山田陽治

実施内容 : 侍従橋～大道橋 (土嚢袋2袋)

参加者 : 藤間康司、今井康祥、今井幸子、今井翔太(中2)、今井はるか(小5)、柴田繭子、柴田真菜(中2)、柴田幸成(小3)、柏倉正和、柏倉陽向(中1)、柏倉陽斗(小5)、吉岡文美、吉岡快(年長)、河本充雄、飯村優介、佐野慎吾、佐野歩海、佐野汀、金子英司、深沢大地、貞廣宇保(中1)、本庄亘輝(小6)、山田陽治(計23名)

気づいた点 : ゴミは少なかった。

アズマヒキガエルが産卵していた。 アズマヒキガエルの卵



クリーンアップデビューした佐野汀ちゃん



集合の様子



侍従川の桜



回収したゴミ

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ オモロヤマタカマイマイ ～



学名： *Satuma omoro* 殻径： 2.5 mm

分布： 久米島

沖縄諸島久米島固有のカタツムリ。「おもしろ」とは中縄の古謡のことで、おもしろ研究で有名な仲原善忠氏が久米島出身のためこの和名がついたとの説がある。樹木の葉が生い茂った薄暗い林内に生息し、主に樹木の樹冠部やツル植物の茂みの中を住处としているが、近年農地開発や大規模伐採、リゾート開発により、生息に適した環境が奪われ激減している。現在環境省版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類として扱われている。

監修：熊井健（沖縄在住）

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

源流の森は暖冬のち寒春となった。最も印象的だったのが、3月29日未明から強い雨で、レーダーでは関東山地の降雪が拡大。奥羽地方からの寒気流の流れも強まってきた。前線上の低気圧も強く八丈島の北直近を真東に向かうコースに。関東山地で寒気がせき止められてたまり、三浦半島方向に吹き出す。午前8時、窓ガラスにみぞれ確認。9時頃には雪多いみぞれで朝比奈方面は白くかすんだ。10時40分調査出発、大道はみぞれ、鼻欠け地蔵過ぎると雪となり朝比奈インターより上は大粒の牡丹雪。北西に進み長い階段登れば積雪だ。11時15分関が谷奥で折り返し天園方面へ。この頃から雪さらに強まる。ヤマザクラもタチツボスミレも雪化粧していた。天園越えて西の岩山まで行った。正午頃で4cm積雪し、強い吹雪だった。岩山で折り返し復路の市境尾根でノウサギも目撃した。12時50分に大道に戻る頃、雪のピークは過ぎていた。止んだ後も寒く17時頃、関が谷奥の山頂広場まで登ると一面残雪で、ノウサギの足跡がみられた。

4月もこの時期としては強い寒気が南下して、冷え込む日が多く桜は長持ちして、山菜の動向もスピードダウンして平年並みとなった。



ヤマザクラ



タチツボスミレ



岩山



展望

朝夷奈の森通信番外編 ～ハゼ類卵塊調査～ 飯村優介

4月26日(日) 14:55~15:45

定例活動はコロナ禍で中止となりましたが、一人で西大道エリアの卵塊をみてきました。

短い区間で21卵塊ありシマヨシノボリが優勢。下のほうでウキゴリ系も。どちらも親も確認できた。写真は3枚目のときカメラ水没してしまいこの2枚だけでした。前年春の工事後、秋には川床、瀬と淵が回復していたこともあり、高い密度で産卵された瀬もありました。

4月30日(木)

大道橋真下と上流100m調査し橋真下のみ4卵塊あり。全てシマヨシノボリで親確認は3。この日はデジカメ回復せず写真はありません。

5月3日(日) 14:00~15:30

山王橋真下から遡上、二の橋の先、第二山王橋手前まで計27卵塊確認(うち、山王橋から二の橋25卵塊、二の橋から第二山王橋手前2卵塊、シマヨシノボリとウキゴリ類が混在)

親確認の数でシマヨシノボリが多い。ウキゴリは3月の調査でこのエリアで見られたので産卵期のピーク過ぎて、シマヨシノボリが産卵期のピーク前後か。山王橋と二の橋の間は少し距離が長い。普通に川沿い歩けば3分もしない距離だが一人調査だと1時間半かけて丁寧に見ました。



トピックス&生き物発見記録

4/6(月) 侍従川で「なりきり! むーにゃん生きもの学園」(NHKEテレ) ロケ→5/2放映(再放送は5/7)
…山田監修、出演

4/24(金) 六浦南4丁目エステシッティの池 アズマヒキガエルの幼生を確認。また、六浦南5丁目の沢アサヒナカワトンボを複数個体確認。当地では2009年に調査をしましたが、約10年ぶりに訪れて健在を確認しました。(佐野)

5/12(火) 侍従川でゲンジボタル初見(飯村)



世界中が新型コロナウイルスで騒がしくなる中、苫小牧市も自粛ムードで遠出をしづらい状況となっています。私自身も在宅勤務となり、外に出ることが少なくなりましたこともあって、最近では家の近所で自然観察をして発散をしています。そのおかげもあって、近場で春に咲く花の花畑を発見し、良い観察ポイントが近くにもあることを再確認しています。今年の春は3月はじめ頃から花が咲き始め、例年より1週間ほど早い印象でした。

近所では、黄色い花の「ナニワズ」と「フクジュソウ」から咲きはじめ、続いて白い花の「アキタブキ」「ミズバショウ」、青い花の「エゾエンゴサク」を挟み、また白い花の「キクザキイチゲ」「アズマイチゲ」と、5月のゴールデンウィークまでの間に順番に見ることができました。咲く場所に注目してみると、ここで挙げたアキタブキをのぞく植物は、水辺の林にたくさん咲いているため比較的に湿った環境を好むようです。ただ、同じような水辺でも全く咲いていないところもあるため、湿り気以外にも花を咲かせるための環境の条件があるようで気になるところです。

また、私が東京で住んでいた家の近所では絶対に見ることができなかった植物が普通に見られる一方で、東京の家の近所で見られた植物を1種類も見ることができないということも、地域性がある面白いなと再確認しています。当たり前のことかもしれませんが。



ナニワズ



フクジュソウ



アキタブキ



ミズバショウ



エゾエンゴサク



キクザキイチゲ



アズマイチゲ

だぼはせ通信第50号記念特別企画 侍従川の橋めぐり



①金之橋



②名前なし1(暗渠)



③耕地橋



④名前なし2



⑤名前なし3



⑥朝比奈橋



⑦名前なし4(ワットマン前)



⑧地蔵前橋



⑨里野橋



⑩名前なし5



⑪名前なし6(青木橋)



⑫名前なし7



⑬大道橋(横兵屋前)



⑭加倉橋



⑮中野橋



①⑥第二山王橋



①⑦二の橋(ちとせ園下流側)



①⑧山王橋



①⑨明戸橋



①⑩長嶋橋



①⑪大道東橋



①⑫泥牛橋



①⑬加寿美橋



①⑭六浦二号橋(ココス前)



①⑮諏訪之橋



①⑯侍従橋



①⑰高橋



①⑱汐見橋



①⑲京急逗子線侍従川橋梁



①⑳新川橋



①㉑京急線内川橋梁



①㉒内川橋



①㉓雪見橋



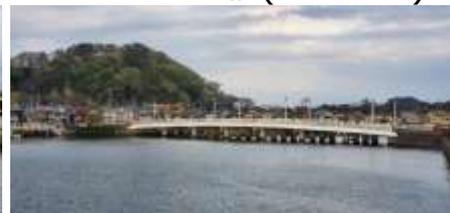
①㉔雪見人道橋



①㉕平潟橋



おまけ：夕照橋(野島入口)



写真撮影：藤間 康司

侍従川調査報告 学生部

2020年3月22日(日)〔上流域調査〕

【調査範囲】加倉橋より上流、源流域 【記録】深沢

【参加者】深沢、佐野、金子、貞廣、柏倉、藤間、五月女

【採集した生物】ウキゴリ、スミウキゴリ、シマヨシノボリ、チチブ、サワガニ、ヌマエビ、ミズムシの仲間、コヤマトンボ(幼虫)、ミルンヤンマ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、サカマキガイ、カワナ、コモチカワツボ、アズマヒキガエル(死体)



コモチカワツボ



サワガニ

<<水鳥調査2019-2020>>

【調査目的】侍従川及び野島海岸へ飛来する水鳥の種類と個体数の把握

【調査日】2019年12月21日、2020年1月25日、2月22日、3月21日

【調査方法】事前に区間を決め、双眼鏡やフィールドスコープで観察した鳥の名前と数を記録。昨年まで行っていた5区間に平潟湾を加えた6区間を調査。

【調査区間】A：野島運河～野島海岸(前浜)、B：野島水路～夕照橋周辺、C：平潟湾、D：平潟橋～内川橋、E：内川橋～六浦二号橋、F：六浦二号橋～第二山王橋"

2019年12月21日 晴れ

	種別	調査区間						合計
		A	B	D	E	F		
1	スズガモ	493	54	5			552	
2	ヒドリガモ	12	15		4	2	37	
3	カルガモ					7	7	
4	オナガガモ	1					1	
5	ホシハジロ						0	
6	キンクロハジロ	1(死体)					1	
7	ヨシガモ						0	
8	ビロードキンクロ	1(♀)					1	
9	クロガモ	1(♀)					1	
10	オオバン	52	14	3	4		74	
11	カイツブリ						0	
12	カンムリカイツブリ	1	2				1	
13	ハジロカイツブリ		2				1	
14	ユリカモメ		3				3	
15	セグロカモメ						0	
16	ウミネコ							
17	コサギ						0	
18	アオサギ						1	
19	ゴイサギ						1	
20	イソシギ	1	1			1	3	
21	セイタカシギ						7	
22	カワウ	5			2		9	
23	カワセミ					1	1	
24	イソヒヨドリ						0	
25	ハクセキレイ	2					2	
26	キセキレイ							
27	ミサゴ						0	

2020年1月25日 晴れ

	種別	調査区間						合計
		A	B	D	E	F		
1	スズガモ	91	24	2	8		125	
2	ヒドリガモ	6	15		2	2	25	
3	カルガモ					2	2	
4	オナガガモ						0	
5	ホシハジロ		1				1	
6	キンクロハジロ						0	
7	ヨシガモ						0	
8	ビロードキンクロ						0	
9	クロガモ						0	
10	オオバン	93	8		1		102	
11	カイツブリ						0	
12	カンムリカイツブリ						0	
13	ハジロカイツブリ						0	
14	ユリカモメ		5				5	
15	セグロカモメ						0	
16	ウミネコ		1				1	
17	コサギ						0	
18	アオサギ						0	
19	ゴイサギ						0	
20	イソシギ	1				1	2	
21	セイタカシギ						0	
22	カワウ	2		1			3	
23	カワセミ				1		1	
24	イソヒヨドリ						0	
25	ハクセキレイ					3	3	
26	キセキレイ						0	
27	ミサゴ						0	

<備考> 本調査では初記録となるビロードキンクロとクロガモがそれぞれ1個体ずつ確認された。

2020年2月22日 晴れ		調査区間						合計
種別	A	B	C	D	E	F		
1	スズガモ	242	25	93			360	
2	ヒドリガモ	40	5			2	47	
3	カルガモ					5	5	
4	オナガガモ						0	
5	ホシハジロ		2	11			13	
6	キンクロハジロ	2					2	
7	ヨシガモ						0	
8	ビロードキンクロ						0	
9	クロガモ	2					2	
10	オオバン	62		2		5	69	
11	カイツブリ		1				1	
12	カンムリカイツブリ		1	3			4	
13	ハジロカイツブリ	1					1	
14	ユリカモメ	1	4	46			51	
15	セグロカモメ	1		2			3	
16	ウミネコ						0	
17	コサギ			1		1	2	
18	アオサギ						0	
19	ゴイサギ						0	
20	イソシギ	1	1				2	
21	セイタカシギ						0	
22	カワウ	5		3	2	2	12	
23	カワセミ						0	
24	イソヒヨドリ						0	
25	ハクセキレイ	4				4	8	
26	キセキレイ						0	
27	ミサゴ						0	

<備考> 本調査では初記録となるカイツブリが確認され
今回が2例目となるクロガモがペアで確認された。

2020年3月21日 晴れ		調査区間						合計
種別	A	B	C	D	E	F		
1	スズガモ	102	85	16		7	210	
2	ヒドリガモ	9	19			2	34	
3	カルガモ					1	1	
4	オナガガモ						0	
5	ホシハジロ		1				1	
6	キンクロハジロ	3					3	
7	ヨシガモ						0	
8	ビロードキンクロ						0	
9	クロガモ	3					3	
10	オオバン	9	26	3	2	2	42	
11	カイツブリ						0	
12	カンムリカイツブリ	2		1			3	
13	ハジロカイツブリ						0	
14	ユリカモメ			19			19	
15	セグロカモメ			1			1	
16	ウミネコ			3			3	
17	コサギ						0	
18	アオサギ						0	
19	ゴイサギ						0	
20	イソシギ	1					1	
21	セイタカシギ						0	
22	カワウ	3	1	3			7	
23	カワセミ						1	
24	イソヒヨドリ	1					1	
25	ハクセキレイ						0	
26	キセキレイ						0	
27	ミサゴ						0	

<備考> ヒメアマツバメ 関東学院大学対岸の上空にて
7~8羽確認。本調査では初記録となる。

【参加者】 藤間、金子、深沢、貞廣、柏倉、五月女

【まとめ】 今回の調査ではクロガモ、ビロードキンクロ、カイツブリの3種類を新たに観察した、これにより本調査で確認された種数は27種類となる。

スズガモの最大数は12月21日の552羽で、昨年度の最大飛来数（2019年1月20日、669羽）と比較すると少し減少しているが、今年度は調査の回数が少なかった事から実際のピーク時の数は同数程度だと思われる。



ビロードキンクロ♀



カイツブリ



クロガモ♀



クロガモ♂

事務局だより

◆6月以降の活動予定

☆定例クリーンアップ6/28(日)、7/26(日)、8/23(日)

9時～11時 大道一丁目緑地(ちとせ園) 集合 ※雨天中止

持ち物:川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、
着替え(心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆7月 いかだ川下り大会

■学生部の活動

☆定例調査(定例クリーンアップ後に実施)6月、7月は下流域

☆8月 夏合宿、1dayシュノーケル遠足、ヤンマとり大会 in 瀬上

<< 新型コロナウイルスの対応について >>

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言がようやく解除されましたが、まだまだ油断はできません。夏にかけて例年どおり上記の活動を予定していますが、状況により変更・中止となることがあります。

その場合は、ホームページ、メーリングリストでお知らせします。

<<2020年度会費納入のお願い>>

4月から新年度になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行事の中止を余儀なくされています。しかしながら、当会報の発行や総会の準備、ホームページの管理など、会の運営は継続しており、いずれも支出を伴うものです。そこで、今年度も例年どおり会費を納入していただきたいと考えています。

皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

また、会費の納入も、例年どおり**6月中**にお願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので、必ず郵便局払込票(払込人負担)で支払ってください。

なお、振込用紙の通信欄に、会員種別(家族、大人、学生部、ジュニア)、お名前(全員分)、会報の郵送希望の有無の記入をお願いいたします。

口座記号番号:00230-5-68634 加入者名:ふるさと侍従川に親しむ会
年会費:家族会員4,000円 大人3,000円 大学生以下1,500円

問合せ:jijyukai@gmail.com

《編集後記》 皆さまのおかげで、だぼはぜ通信は今回で50号となりましたが、この四半期は新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの行事が中止となり、活動報告が少ないのがとても残念です。一刻も早い終息を祈っています。(MK)